

2022年2月28日

事業提案書要約（草の根協力支援型）

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	ペルー共和国
2. 事業名	ペルーにおける障害児スポーツ指導力強化および普及促進プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	ペルー統計局（INEI）によると、ペルーの貧困率は21.7%（2017年調査）と高く、リマ市内でも貧困層と富裕層との格差は著しい。日本・ペルー友好国立障害者リハビリテーションセンター（INR）は、国立専門機関として、ペルーのリハビリテーション医療をリードする重要な役割を担っている。しかし、障害者の多くは極貧層の高齢者や子供たちであり、しかも中・重度障害者である。障害者は、遠方からの通院、脆弱な保険制度の問題等の理由により、満足なリハビリテーションが受けられない。そこで、障害者のQOLの向上および自立支援を促すため、INRは、障害児・者スポーツの取り組みを開始した。その中でも、心身障害児部の医師や理学療法士は、障害児スポーツに関する学ぶ機会がなく、指導技術力が不足しているため、障害児スポーツ時間の活性化が図れていない。なおかつ障害児は、障害児スポーツの楽しさや喜びに触れる機会が乏しく、達成感が味わえない。
4. プロジェクト目標	INRの医師や理学療法士が、疾病や障害の特性および発達段階に応じた障害児スポーツの評価や指導技術を向上することで、障害児の活動の機会が増える。
5. 対象地域	リマ市チョリージョス地区 Instituto Nacional de Rehabilitación Dra.Adriana Rebaza Flores Amistad Perú- Japón (INR)
6. 対象地域を管轄する大使館及び領事館	在ペルー日本国大使館（リマ市）
7. 本事業の対象となる人々	直接裨益者：INR心身障害児部を主体とした障害者スポーツ委員会の医師と理学療法士 間接裨益者：INR医師、理学療法士、作業療法士およびINR障害児と家族。
8. 事業活動	<活動> 1. INRの心身障害児部門の障害児スポーツの運営体制が強化される。 2. INR医師や理学療法士の障害児スポーツ指導能力が強化される。 3. INR内において、継続的に障害児スポーツが提供されるようになる。 4. 広報計画（ペルー・日本）及びリマ市および大分県民へのアプローチ
9. 実施期間	（西暦） 2022年2月～2025年2月（3年）
10. 事業費概算額	9,918千円
11. 事業の実施体制	今回のプロジェクトは、INR側が国際協力室、日本側が大分県理学療法士協会国際活動推進委員会で推進していく。INR側の活動の中心は、障害者スポーツ委員会である。本事業は、その会議と心身障害児部会議に諮られ、心身障害児部委員を中心に他の委員の協力のもと実践される。プロジェクトの具体的協議は、日本側と心身障害児部との定例の会議を持つ。今後、本事業開始の場合は、INRにコーディネーター理学療法士1名を配置する予定である。
II. 提案団体の概要	
1. 団体名	公益社団法人大分県理学療法士協会
2. 活動内容	「理学療法の知識と技術の推進」を目標に掲げ、それらを県民の皆様の生活と健康に役立てていただけるような様々な活動を行っている。